

# 児童の増加が続く山手小学校

## 教育環境面でさまざまな課題

### 早急な対策が必要

**問** 県下で2番目に児童数が多い山手小学校は、児童数の増加に伴い、1人当たりの運動場面積の減少や普通教室の不足、休憩時間にトイレが混雑するなど、教育環境面の課題が発生している。市の対応について聞く。

**答** 本市は、子育て世代の人口増が続いており、

対応する必要がある。現在、運動場を含む教育環境を改善するために小学校周辺の土地を購入する方向で調整している。土地を適正価格で購入できない場合は、早急に別の方策も含めて検討したい。

特に山手小学校は児童数の増加が顕著である。普通教室が不足するため、運動場にプレハブ校舎を増築し、教室の確保に努めているが、これにより運動場が狭くなり、学校教育法で規定している適正規模を満たせていない。今後も児童数は増える見通しであり、早急に

対応する必要がある。現在、運動場を含む教育環境を改善するために小学校周辺の土地を購入する方向で調整している。土地を適正価格で購入できない場合は、早急に別の方策も含めて検討したい。



プレハブ校舎により運動場が狭小に

状況によっては、緊急修繕で低学年の女子トイレを和式から洋式に改修するなどの対策も図っていく。

## 教員不足が深刻化 人員確保の取り組みと 働き方改革を推進

**問** 全国的に教員不足が深刻化しているが、本市も多くの学校で欠員の解消ができていない。現状と欠員を解消するための方策を聞く。

各学校では、全ての教員が多くの業務を抱える中、児童生徒の学びを保障するため教員同士で補い合っている。市教育委員会も現状を認識しており、臨時講師の名簿に登録をしている人だけではなく、定年退職した教員にも依頼して、人員確保に努めている。今後は、県教育委員会にも教職員定数の確保を強く要望していく。

教員不足の問題は、教員を目指す人材が減少していることが大きな要因である。現状、教員は、長時間勤務などの印象が強いが、生き生きとした教育活動ができ、情熱や思いが児童生徒の心に響く魅力的な職業となるよう、これからも教員の働く環境の改善に積極的に取り組んでいく。

各学級では、全ての教員が多くの業務を抱える中、児童生徒の学びを保障するため教員同士で補い合っている。市教育委員会も現状を認識しており、臨時講師の名簿に登録をしている人だけではなく、定年退職した教員にも依頼して、人員確保に努めている。今後は、県教育委員会にも教職員定数の確保を強く要望していく。

## 高丘小中一貫教育校 安全で快適なバス通学を 増便や路線変更の協議へ

**問** 高丘小中一貫教育校へ校区外から通学する児童生徒の多くはバスを利用しているが、始発の大久保駅からすでに満員で乗車できないことがある。今後、さらに校区外から通学する児童生徒の増加が見込まれるが、対策を問う。

**答** 高丘小中一



始発から満員になる場合も

貫教育校へは、校区外から70人程度の児童生徒が主にバスで通学している。バス路線は、2路線あり、高丘西小学校に通う児童は、岩岡に向かう路線、高丘東小学校や高丘中学校に通う児童生徒は、明石北高校を経由する路線を利用している。明石北高校を経由するバスは、本数が少なく、高校生も利用する。特に雨天時は満員となり、遅延

## 明石養護学校にスクールバス 希望する全ての子どもが利用できるよう 来年度後半の導入を目指す

**問** 明石養護学校へスクールバスを導入する取り組みについて、進捗よく状況を聞く。

**答** 同校の通学方法は、昭和57年に石ヶ谷公園付近の現在地へ移転した当時の保護者からの要望により、自家用車または保護者が同乗する通学用タクシーの送迎としている。

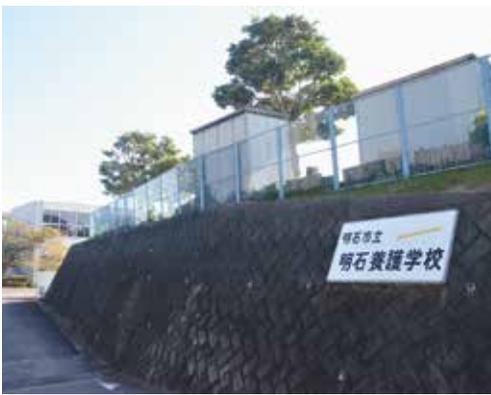
が増え、送迎が保護者の負担となり、養護学校の通学を希望している地域の子どもの利用も増える。また、保護者の体調や用事などで、児童生徒は元気がない状況がある。そのため本市は、スクールバスの導入を検討している。時期は、早くても来

も発生している。現在、高丘小中一貫教育校と市教育委員会から児童生徒の乗車について、雨天時や混雑時の配慮を明石北高校に依頼している。今後は、明石北高校へ引き続き協力を依頼

するとともに、児童生徒が安全・快適に通学できることや、なるべく金銭的な負担が生じないことなどを考慮し、状況の改善に向けて、増便や路線変更などをバス会社と協議していく。

年度後半を予定しており、車両は一般的な大型バスではなく、可能な限り児童生徒の自宅近辺まで行けるような車両を検討している。

現在、同校の在籍者と来年度の入学予定者の保護者に対して意向調査を行っており、必要な台数やストレッチャータイプなど、形状の把握に努めている。なお、医療的ケア



ニーズに沿ったスクールバスを検討中

が必要ない児童生徒に対しては、看護師を配置するなど、障害の程度にかかわらず、全ての希望者が利用できるようにしていく。

## 意見書を提出

- 1 自治体規模に合わせた参考事例を国として発信すること。
- 2 テレワーク可能な企業の斡旋、紹介を全国規模で行える環境を整備すること。
- 3 時間的な制約があっても、デジタルスキルを習得してテレワークによる就労ができれば、実践経験を積む機会を提供すること。
- 4 テレワークの導入支援体制を整備すること。着実な遂行のための予算を確保すること。
- 5

## 請願

▽採択された請願△  
○豊かな明石の海を目指して明石市二見浄化センターから排水される栄養塩分布の最適化に関する請願



普及啓発に取り組む

## 障害者の社会参加 意思疎通の支援

### 明石市版支援ボード

**問** コミュニケーション支援ボードの普及に向けた本市の取り組みは、日常生活のさまざまな場面に応じたコミュニケーションシオン支援ボードは、障害者の社会参加の促進に有効である。そのため本市は、先進自治体の事例を参考に導入を検討している。

その取り組みとして、市内の事業者を対象にユニバーサルマナー研修を実施するとともに、障害者への接客に対する困りごとについてのアンケートや、あかしユニバーサルモニターと障害当事者を対象とした買い物に関するアンケートを実施している。

今後は、協議会の意見等を踏まえ、必要性が高いと思われる場面から順次、明石市版のコミュニケーション支援ボードを作成し、普及啓発に取り組んでいきたい。